

基幹研究

知的障害教育における 「育成すべき資質・能力」を踏まえた 教育課程編成の在り方

ーアクティブ・ラーニングを活用した
各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化ー

平成 27 年度～28 年度

研究成果報告書

平成29年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

本研究は、学習指導要領が大きく変わる時期に合わせて知的障害教育においても新しい時代に必要となる育成を目指す資質・能力の考え方に基づき、教育課程編成をどう考えていけばよいか、それを実現するための指導方法として重要であると提言されたアクティブ・ラーニングの実践を検証することで、特別支援教育の更なる発展の一助になるべく研究として立ち上げた。なお、副題は「—アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化—」としたが、本研究では、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた実践と同様にとらえている。本研究に協力いただいた研究協力機関の多くは、前回の「知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究」にも協力いただき、観点別学習評価を組織的に実践している学校である。また、本研究のカリキュラム・マネジメントに関する部分では、全国特別支援学校知的障害教育校長会と共同で、全国の特別支援学校（知的障害）の教育課程の編成や改善等に係る現状や課題の調査・分析を行った。

本研究は、研究1「知的障害教育における「今後・育成を目指す資質・能力」についての具体的検討」、研究2「研究協力機関の実践に基づく知的障害教育分野でのアクティブ・ラーニングの検討」、研究3「知的障害教育における教育目標と内容・指導方法、学習評価が一体的につながりを持つための工夫の検討」の大きく3つに分けられる。

研究1に関しては、育成を目指す資質・能力の知的障害教育における具体像をどうするかから始めた。中央教育審議会のまとめが出ていない段階で、世界の動向として参考にされたOECDのキー・コンピテンシー等の考え方を、研究協力機関で作成している単元系統表を使って分析したところ、知的障害特別支援学校でも汎用的能力の指導を既に行っていることがわかった。このことは、新しい時代に必要な資質・能力は、知的障害教育でも発達の実態を考慮すれば同じように考えていくことが可能であるとの方向性の確認につながった。研究2及び3に関しては、研究協力機関に2年間にわたってアクティブ・ラーニングの視点で実践に取り組んでもらい、知的障害教育に必要な授業づくりの特徴を見いだすことができた。このことから、学校がカリキュラム・マネジメントの一環として進めている、「育てたい力」の共通理解から、目標、内容・指導方法、学習評価を、授業研究を中心にして組織的に取り組むことが重要であることが理解できた。

本研究は、学習指導要領の改訂と平行して行われてきた。新学習指導要領は本研究の終了と同時に告示されるが、学校現場が新学習指導要領を具体化するには、教育課程編成や授業研究に生かす具体的方法が必要である。本研究が、各学校での取組に少しでも役立ち、今後の新学習指導要領を活用したカリキュラム・マネジメントに活用いただけることを期待している。

研究代表者 情報・支援部上席総括研究員 明官 茂

目次

はじめに

1. 研究の背景と目的	1
(1) 「育成を目指す資質・能力」を踏まえた教育課程に関する検討事項と課題	1
(2) 特別支援学校（知的障害）における教育課程編成の現状と課題	2
① 教育課程編成の現状と課題	2
② 「育成を目指す資質・能力」に関する課題	3
③ アクティブ・ラーニングに関する課題	4
④ 学習評価の在り方に関する課題	5
(3) 「育成を目指す資質・能力」を踏まえた学校による教育課程編成の工夫	5
(4) 研究の目的	8
(5) 研究の全体構造	8
(6) 本研究の意義	10
2. 研究1 知的障害教育における「育成を目指す資質・能力」についての具体的検討	11
(1) 目的	11
(2) 育成を目指す資質・能力に関する文献の概観	12
① 世界における育成を目指す資質・能力の動向	12
② 日本における育成を目指す資質・能力の動向	14
③ 資質・能力の三つの柱	17
(3) 知的障害教育における「育成を目指す資質・能力」の具体例に関する検討	19
① 目的	19
② 方法	19
③ 結果と考察	21
③ 考察のまとめ	26
(4) イギリスの知的障害教育における教育課程と育成を目指す資質・能力	26
① イギリスにおけるナショナルカリキュラムの概要	26
② イギリスにおける育成を目指す力の捉え	28

③ 知的障害教育におけるキースキルの考え方	29
(5) 小・中学校で扱う育成を目指す資質・能力と知的障害教育において 育成を目指す資質・能力の具体の類似性.....	35
(6) まとめと今後の課題	37
3. 研究2 研究協力校の実践に基づく知的障害教育分野でのアクティブ・ ラーニングの検討	41
(1) 目的	41
(2) 方法	42
(3) 結果	44
① 千葉県立特別支援学校流山高等学園	44
② 広島県立庄原特別支援学校	53
③ 愛媛大学教育学部附属特別支援学校	64
④ 長崎県立鶴南特別支援学校	75
⑤ 鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	85
(4) 考察	97
① 研究協力機関における事例のまとめと学習評価	97
② 主体的・対話的で深い学びを目指した授業の構築について	99
③ まとめと今後の課題	103
4. 研究3 知的障害教育における教育目標と内容・指導方法、学習評価が 一体的につながりを持つための工夫の検討	105
(1) 目的	105
(2) 文献調査によるカリキュラム・マネジメントの概念整理	105
① 方法	105
② 結果	106
③ 考察	109
(3) 全国特別支援学校知的障害教育校長会「情報交換アンケート」調査	111
① 全国特別支援学校知的障害教育校長会の情報交換資料について	111
② アンケート調査の結果について	111
③ アンケート調査結果の分析及び考察について	123
(4) 研究協力機関の「一体的つながり」に関する取組状況	133
① 方法	133
② 結果	133
③ 考察	141

(5) 研究3のまとめと今後のカリキュラム・マネジメントに関する 提言及び今後の課題	142
5. 総合考察	147
(1) 知的障害教育における「育成を目指す資質・能力」の視点を 踏まえたカリキュラム編成のモデル／カリキュラム・マネジメント..	147
(2) 今後の課題	150
6. 寄稿 中央教育審議会答申を踏まえた育成を目指す資質・能力とカリキュラ ム・マネジメント～本研究の意義と研究成果の活用に向けて～	152
(1) はじめに	152
(2) 中央教育審議会答申に至る経過	152
(3) 中教審答申に基づく育成を目指す資質・能力の3つの柱	153
(4) 「育成を目指す資質・能力」と「カリキュラム・マネジメント」 ...	155
(5) 社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～年間指導計画を保護者等と共有する～.....	156
(6) 特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントを推進させて いくために	156
7. 研究体制	158